



丹波縄文の森塾の3日目は、縄文時代に使われていた土器を自分たちの手でつくる体験。

まず、(公財)滋賀県文化財保護協会の鈴木康二先生から、縄文時代の遺跡や貝塚の発掘調査の成果を踏まえ、そこから想定される縄文時代の人々のくらしと土器づくりについて学びました。



続いて、陶芸家の宮本ルリ子先生の指導のもと、粘土を使って縄文土器づくりに挑戦。

まずは、ボール状に丸めた粘土を平たく潰して、器の底になる部分を作り、それを裏返したホウの木の葉の上に置いて、葉脈の模様をつけました。次に底の上にドーナツ状に伸ばした粘土を2段に重ねて、土器の下の部分をていねいに形を作りました。



昼食は毎年、好評の「タコライス」。また、前回の縄文塾で、みんなで収穫した梅の実でつくった「梅ジュース」もいただきました。

午後からは、土器の上の部分の形づくりと飾りをつける作業を行いました。



小学3~4年生には少しむずかしい作業でしたが、先生やサポーターの助けを得て、竹べらやひもで縄文土器の特徴である網目の模様を付けたり、粘土を細い棒状にして取っ手を付けたり、オリジナリティ豊かなものに仕上がりました。

形ができた土器は、これから3週間、倉庫で十分乾燥させ、7月29日の縄文の森塾で野焼きをして翌日に取り上げる予定。どんな土器が出来上がるか楽しみです。

